

■科目別授業計画表

科目名	心理学	授業形態	講義
担当講師名	森月 義雄		
科目内容	心を学ぶ心理学。心とはなんなのでしょうか？心という言葉は誰もが知っていますが他人に説明しようと思うと難しいですね。たとえば、悲しいから涙が出るのか、涙が出るから悲しいのかどちらでしょうか。又、よく共感といますが他人の気持ちを感じることが本当にできるのでしょうか？そんな疑問も含め、人間の心について様々な角度から理解します。その理解は将来、いやいまあなたが生きている日常生活から役立つものでしょう。今話題の脳科学の知識も交えながら学んでゆきます。		
到達目標	多岐にわたる心理学の基礎知識の習得。		
実務経験担当教員	医療法人や短大等で臨床心理カウンセラーの経験（現役）を活かし、心理学の基礎知識、自己理解や他者理解を深めコミュニケーション能力の向上を目指し、脳科学の知識についても講義する。		
授業時間	総時間数 <u>30</u> 時間 [90分授業を、週 <u>1</u> 回で 15 週実施 総授業回数 15]		
単位数	<u>2</u> 単位		
使用教材	カラー版徹底図解 心理学（新星出版社）		
	授 業 内 容		
	1 回目：はじめに（心理テスト）		
	2 回目：学習・行動		
	3 回目：動機・欲求		
	4 回目：感覚・知覚・認知		
	5 回目：記憶		
	6 回目：個人と集団（1）		
	7 回目：個人と集団（2）		
	8 回目：人格・性格（1）		
	9 回目：人格・性格（2）		
	10 回目：発育・発達		
	11 回目：生涯発達心理学（1）		
	12 回目：生涯発達心理学（2）		
	13 回目：発達障害		
	14 回目：心理療法の理論と実践		
	15 回目：まとめ		
評価方法基準	筆記試験で評価（100%）		

■科目別授業計画表

科目名	歯科衛生士概論	授業形態	講義
担当講師名	川上 理永		
科目内容	歯科衛生業務を有効に展開するために必要な態度・姿勢と専門知識や全体像を学ぶ。また、倫理的に判断して行動するのは何のためか、専門技術とは何か、患者・スタッフの安全確保はどうするのかを考え、歯科衛生士の現状を理解する。		
到達目標	医療専門職としての意義、歯科衛生士の考え方や行動について理解し、専門的知識・技術ならびに態度を身につけていくことを目指す。		
実務経験担当教員	歯科診療所の臨床現場での歯科衛生士、専門学校での教員経験（現役）を活かし、歯科衛生士の業務、歴史、法律、倫理、組織や役割について講義する。		
授業時間	総時間数 <u>30</u> 時間 [90分授業を、週 <u>1</u> 回で 15週実施 総授業回数 15]		
単位数	<u>2</u> 単位		
使用教材	歯科衛生学シリーズ 歯科衛生学総論（医歯薬）		
参考図書	歯科衛生士になるためのオリエンテーション		
授業内容	<p>1 回目：歯科衛生士ガイダンス（歯科衛生士になるためのオリエンテーション）</p> <p>2 回目：歯科衛生学について</p> <p>3 回目：歯科衛生士の歴史</p> <p>4 回目：歯科衛生活動の倫理</p> <p>5 回目：歯科衛生過程とは</p> <p>6 回目：歯科衛生士法と歯科衛生業務</p> <p>7 回目：歯科衛生士の役割</p> <p>8 回目：安全管理</p> <p>9 回目：歯科衛生士と医療倫理</p> <p>10 回目：歯科衛生士と医療倫理 2</p> <p>11 回目：歯科衛生士の活動と組織 1 歯科衛生士の動向</p> <p>12 回目：歯科衛生士の活動と組織 2 保健・医療・福祉にかかわる歯科衛生士</p> <p>13 回目：歯科衛生士の活動と組織 3 歯科衛生活動の場</p> <p>14 回目：歯科衛生士と組織</p> <p>15 回目：総まとめ</p>		
評価方法基準	小テスト（10%）・筆記試験（90%）で評価		

■科目別授業計画表

科目名	歯牙解剖学	授業形態		講義	
担当講師名	檜山 太希				
科目内容	歯科衛生士に必要な基本的な歯の知識を学習し、歯の形態と役割を理解していく。				
到達目標	歯の形態と役割を理解し、歯の鑑別ができるようにする。				
実務経験担当教員	歯科医師として大学歯学部等で教鞭をとり、その経験を活かし口腔を中心とする解剖学的名称や基礎知識を講義する				
授業時間	総時間数 30 時間 [90分授業を、週 2 回で 8 週実施 総授業回数 15]				
単位数	2 単位				
使用教材	歯科衛生学シリーズ 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 (医歯薬)				
参考図書	歯科衛生学シリーズ 病理学・口腔病理学 (医歯薬) 歯の解剖学 (金原出版株式会社) 歯を見分ける技術 (学建書院)、歯のかたち (永末書店)				
授業内容	<p>1 回目：歯牙解剖総論：歯とはなにか</p> <p>2 回目：歯の種類と名称、歯の記号・方向用語、歯式</p> <p>3 回目：永久歯：上下顎切歯</p> <p>4 回目：永久歯：上下顎犬歯</p> <p>5 回目：ミュールライターの三徴候</p> <p>6 回目：永久歯：上顎小臼歯</p> <p>7 回目：永久歯：下顎小臼歯</p> <p>8 回目：永久歯：上顎大臼歯</p> <p>9 回目：永久歯：下顎大臼歯</p> <p>1 0 回目：乳歯の形態 (永久歯との比較)</p> <p>1 1 回目：各乳歯の形態</p> <p>1 2 回目：歯の異常</p> <p>1 3 回目：歯列と咬合</p> <p>1 4 回目：過去国家試験問題</p> <p>1 5 回目：解説とまとめ</p>				
評価方法基準	筆記試験で評価 (1 0 0%)				

■科目別授業計画表

科目名	微生物学	授業形態		講義	
担当講師名	堀江 真弓				
科目内容	微生物学は歯科医療の基礎的な学問である。口腔感染症である齲蝕や歯周病は、微生物が原因である。また、医療の現場における感染予防のためにも、微生物について知ることが必要である。 これらのことを踏まえ、歯科医療に必要な微生物学の基礎を学ぶ。				
到達目標	原因となる微生物についてと宿主の防御能について理解する。				
実務経験担当教員	歯科医師として大学歯学部で教鞭をとりその経験を活かし、病原性微生物の性質や疾病についてや医療現場による感染予防について講義する。				
授業時間	総時間数 30 時間 [90分授業を、週 1 回で 15 週実施 総授業回数 15]				
単位数	2 単位				
使用教材	歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復の過程の促進2 微生物学 (医歯薬)				
参考図書	系統看護学講座 微生物学 (医学書院)				
授業内容	<p>1回目：Ⅰ 1章 微生物学の概要 ・ 2章 感染</p> <p>2回目： 3章 微生物学の総論</p> <p>3回目： 4章 微生物の培養 ・ 観察と検査</p> <p>4回目： 5章 化学療法</p> <p>5回目： 6章 消毒と滅菌</p> <p>6回目：Ⅱ 1章 口腔環境と常在微生物</p> <p>7回目： 2章 バイオフィルムとしてのプラーク</p> <p>8回目： 3章 う蝕の細菌学</p> <p>9回目： 4章 歯周病の細菌学 ・ 5章 その他の口腔感染症</p> <p>10回目：Ⅲ 1章 主な病原細菌</p> <p>11回目： //</p> <p>12回目： 2章 歯科に関連するウイルスとウイルス感染症</p> <p>13回目： 3章 歯科に関連する真菌 ・ 4章 口腔領域の原虫 ・ 5章 プリオン</p> <p>14回目：Ⅳ 1章 免疫</p> <p>15回目： 2章 アレルギー ・ 3章 免疫に関連する疾患</p>				
評価方法基準	筆記試験で評価 (100%)				

■科目別授業計画表

科目名	病理学	授業形態	講義
担当講師名	前田 初彦、加藤 裕美、杉田 好彦		
科目内容	病理学は病気の本態を明らかにする学問である。したがって、病理学は単に病気の原因や病変の成り立ちを教えてくれるだけでなく、病気の診断やその治療あるいは病気の予防などに関するいろいろな知識を与えてくれる学科である。		
到達目標	病気（疾患）について、原因・発生機序・経過・転帰という観点からとらえて理解する。		
実務経験担当教員	歯科医師として大学歯学部で教鞭をとりその経験を活かし、病気や疾患の基本について学び、その診断方法や治療法あるいは予防法を講義する		
授業時間	総時間数 <u>30</u> 時間 [90分授業を、週 <u>2</u> 回で 8 週実施 総授業回数 15]		
単位数	<u>2</u> 単位		
使用教材	歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学（医歯薬）		
参考図書	病理学概論（永末書店）、新口腔病理学(医歯薬出版)		
授業内容	<p>1 回目：病理学序論と病因論（内因と外因）、先天性疾患と奇形（遺伝、遺伝性疾患、奇形）</p> <p>2 回目：循環障害（循環血液量の異常、閉塞性の循環障害、側副循環）</p> <p>3 回目：代謝障害と退行性病変（細胞障害、変性と物質代謝障害、萎縮、細胞死）</p> <p>4 回目：増殖と修復（肥大と増生、化生、再生と修復、創傷治癒、異物処理）</p> <p>5 回目：炎症（炎症の原因・経過、他）と免疫応答異常（免疫応答、アレルギー、他）</p> <p>6 回目：腫瘍（定義、発生機序と原因、種類と性質、診断）</p> <p>7 回目：歯の発育異常（大きさ・歯数・形・構造・萌出時期・位置・咬合の異常）</p> <p>8 回目：歯の損傷と着色・付着物（物理的損傷、化学的損傷、着床、プラークと歯石）</p> <p>9 回目：う蝕（疫学と病因、分類、他）、象牙質・歯髄複合体の病理(歯髄炎、他)</p> <p>10 回目：歯周組織の病態（根尖部歯周組織の病変、辺縁部歯周組織の病変、他）</p> <p>11 回目：口腔粘膜の病変（特徴、メラニン色素沈着症、ウイルス感染、他）</p> <p>12 回目：口腔領域の嚢胞と腫瘍、口腔癌（前癌病変、上皮性異形成と上皮内癌、他）</p> <p>13 回目：顎骨の病変（顎骨骨髓炎、腫瘍性病変、顎関節の病変）、唾液腺の病変</p> <p>14 回目：口腔領域の奇形、口腔組織の加齢変化</p> <p>15 回目：試験の解説</p>		
評価方法基準	筆記試験にて評価（100%）		